

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立巽中学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

学校の現状と課題

本校の教育目標である「人間尊重の精神を基盤とし、一人一人の生徒が心豊かに力強く生き抜く人材となる基盤をはぐくむための教育を推進する」を目指して取り組んでいる。学校全体としては、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境となっている。しかし、一部の生徒は遅刻や欠席が多く、基本的な生活習慣や学習習慣が十分身につけていない。また、学習習慣が定着していない生徒、学習意欲の低い生徒が多い。

- ・一人ひとりの自己肯定感や学習習慣を高めるためにも、日々の学習や様々な活動や取組を通して、課題や困難を解決する力をつける機会を設け、自ら考え、行動し、協力して取り組む「主体的・対話的で深い学び」を推進していくことが継続して必要である。
- ・「自分は誰かの役立っている」「貢献している」等の自己有用感を高めることも自己肯定感を高めることにつながるため、「人の役に立つ」「相手に喜んでもらう」ような行事や体験を多く積むことを実施していく。
- ・学力の定着を図るために、放課後や長期休業中の時間を活用した学習会を開催し、家庭と協力して生活習慣や学習習慣の確立に向けた指導を引き続き、進める必要がある。また、日々効果的な学習者用端末の積極的な使用を目指す。
- ・今年度は不登校生徒や多様な状況にある生徒への対応、支援と読書習慣の定着、向上を目指し取り組んでいく。また、道筋をたてて話すことや文章を書くことが苦手な生徒も多い現状から、各教科や総合的読解力育成の授業を通し、対話的な教育活動を行い、「コミュニケーション能力」の向上にも引き続き取り組む。

(大阪市教育振興基本計画【中期目標】より)**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を65%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使用について理解していますか」に対して肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を82%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査で「人の役に立つ人間になりたい」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。
- 災害発生時に「減災」の考えを踏まえ、危険を回避するために主体的に行動するとともに、支援者となる視点からも安全で安心な社会づくりに貢献できる人物を育成させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合

を35%以上にする。

- 令和4年度～令和7年度の全国学力学習状況調査における国語および数学の平均正答率の対全国比を1.00とする。
- 令和4年度～令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業において学習者用端末を使用した割合を昨年度より増加させる。授業日においては生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を84%以上にする。

2 校内の年度目標

1【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 82%、R7 79.3%)
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 11%、R7 6.7%) ※2学期末時点
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 60%、R7 0%)
- 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6 89%、R7 84.2%)
- 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を77%以上にする。(R6 77%、R7 78.6%)
- 学校アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を95%以上にする。(R6 95%、R7 96.6%)
- 年度末の校内調査で「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6 98%、R7 98%)

2【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R6 47%、R7 43.4%)

- 全国学力学習状況調査において国語および数学の平均点の対全国比を、前年度より上回る。
(R6 国語 0.84、数学 0.80、R7 国語 0.84、数学 0.76)
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。
※R6→2年 (R6 対府比 国語 0.94 数学 0.87)、1年 (R6 対府比 国語 0.93 数学 1.04)
※R7→3年 (R7 対府比 国語 0.88 数学 0.86)、2年 (R7 対府比 国語 0.98 数学 0.96)
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 48%以上にする。(R6 46.9%、R7 50.7%)
- 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合 62%以上にする。(R6 61%、R7 58.6%)
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。
【R7 男 42.03(42.20) 女 48.04(47.58)】(全国平均値)

3 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
(R6 21%、R7 10.1%) ※1 月末時点
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 45%以上にする。(R6 42%、R7 45.1%) ※1 月末時点
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。(R6 77%、R7 64.5%) ※1 月末時点
- 月 2 回のゆとりの日を設定し、定時退勤の推奨を行う。また、学校閉庁日を年 13 日以上設定する。(R6 長時間勤務 月/約 32 時間・閉庁日 13 日)、(R7 長時間勤務 月/約 35 時間・閉庁日 12 日) ※1 月末時点
- 年度末の校内調査における「本をよく読んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 43%以上にする。(R6 38%、R7 36.6%)
- 放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動 (学校元気アップ事業も含む) を通して、生徒の居場所づくりや放課後学習支援の回数を昨年より増やす。
(R6 計 102 回開催、のべ利用人数 729 人利用)
(R7 計 168 回開催、のべ利用人数 811 人利用) 1 月末時点

3 本年度の自己評価結果の総括

- 最重要目標 1～3 において、概ね達成できた。
- 10 月に学習者用端末の入れ替えがあり、持ち帰りを基本とした対応となったが、使用頻度は増加しなかった。現行の活用方法にとどまらず、端末が学習基盤となるように教職員自らも効果的に活用する姿勢やスキルを高め、個別最適な学びを推進し、多様な活用方法を積極的に取り入れる必要がある。また、生徒の SNS 使用に関するトラブルは増えており、防止のため使用方法やモラルの指導をさらに継続・拡大させる。
- 今年度も学校生活や学習の場における外部講師の効果的な活用を積極的に行った。また、昨年度に引き続き英語検定を実施できた。次年度以降も大阪市総合教育センター

で実施しているオーエン（OEN）の出前授業等も取り入れながら、さらに外部講師活用の範囲を広げ、生徒に直に響く効果的な活動を実施していきたい。

- 「安全、安心な教育活動」をベースとして、「毅然とした対応」の中でも「丁寧な対応」、「子ども自身に達成感を与える取り組み」などを継続して取り入れながら「一人ひとりを大切にした多様な対応」をさらに充実させ、実施する必要性が増加している。
- 教職員の心身の健康が子どもたちの学校生活の安心や授業等充実へ大きく影響するため、働き方改革に関する支援や取り組みをさらに推進する必要がある。
- 大阪関西万博への参加により、グローバルな視野を持たせ、多様な人種や国に触れる機会により、多文化について考えることができた。渡日生が増え続ける状況において、生徒同士の関わり等、今後の教育活動に活かすことができる取り組み（校外学習）でもあった。
- 次年度より大阪市教育振興基本計画が改訂（中期取組から後期取組へ）となるが、今年度までの重点項目の取り組みを継続しつつ、生徒の将来を見据え主体的（自らが考え行動する）に活動できる取り組みや対応をさらに広げていきたい。

大阪市立巽中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>1① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R7 79%) (R6 82%) ※R6 いじめ認知件数15件</p> <p>1② 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R7 不登校生19名 全体7%) (R6 不登校生32名 全体11%)</p> <p>1② 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善や減少の割合を増加させる。(R7 2,3年生 不登校生徒10名→改善0名)</p> <p>1② 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R7 84%) (R6 89%)</p> <p>1③ 年度末の校内調査で「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R7 98%) (R6 98%)</p> <p>2④⑤ 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を77%以上にする。(R7 78%) (R6 77%)</p> <p>2④⑤ 学校アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を95%以上にする。(R7 96%) (R6 95%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容【1、安全・安心な教育環境の実現】①いじめ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない仲間づくりを進め、互いを認め合い、支えあう集団を育成する。 委員会活動、生徒会活動の活性化を図り、行事を通して自主性を育て、規律ある学校生活の充実を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日の心の天気の利用、いじめアンケートや教育相談の定期的な実施で、早期発見や初期対応をスムーズに行う。 いじめ事案に対して丁寧かつ的確な対応を行い、100%解消に取り組む。 全校集会や委員会活動、学年等の活動を通じて、積極的な呼びかけや取り組みを充実させる。 	
<p>【進捗状況(10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日の心の天気の利用や、定期的ないじめアンケートを実施することで、生徒一人ひとりの状況を担任や学年教員で把握している。 いじめ事案に対しては、聞き取りを迅速に行い、丁寧かつ的確な初期対応を心がけている。 	

<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の天気の利用やいじめアンケート、教育相談等、日々の学校生活の中で、担任を中心に学年教員が「いじめ」に対する指導により、校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は96.5%と昨年より上回ることができた。(R6 95%) いじめアンケートで出てきた事案に関しては、聞き取りを迅速に行い、丁寧かつ的確な対応を学年教員や複数の教員で行い、解消に向けて取り組むことができた。その結果、いじめ事案の件数は昨年より大幅に減っている。 	
<p>取組内容【1、安全・安心な教育環境の実現】②不登校対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ココカラルームなどを利用した別室登校など、生徒の実情に合わせた登校支援を行っていく。 家庭や関係機関との連携を密にし、生活習慣の乱れによる不登校の生徒の数を減少させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒（家庭）に、別室の認知を図り、登校の促しを強化していく。 不登校生徒の実態を把握し、家庭連絡や家庭訪問を密に行うことで、不登校生徒の在籍比率を減少させる。 	
<p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒（家庭）への対応を担当だけでなく、管理職・学年等で連携を取り、家庭連絡や家庭訪問を実施し、登校支援等を行っている。 不登校生徒等で教室に入りづらい生徒の対応として、ココカラルームを活用し登校や入室を促している。ココカラルームの環境整備は順調に進めることができている。 不登校生徒への対応として、ICTを活用した学習支援を行い、個別に応じた活用を実施している。 	B
<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への対応を担当中心で学年の教員全体で連携を取り、家庭連絡や家庭訪問を実施し、登校支援を行った。結果、今年度の不登校生徒は19名で、在籍比率は7%と昨年より少し減少した。 不登校生徒で教室に入りづらい生徒の対応として、ココカラルーム（延べ150人以上）や図書室（昨年の3倍以上の利用）等を活用し、別室登校を促すことで、登校しやすい雰囲気を作った。 校内アンケートで「学校での生活が楽しい」の項目では肯定的な回答が84%と昨年を下回る結果となった。生徒が登校しやすく充実した学校生活を送ることができる環境整備が引き続き必要である。 	
<p>取組内容【1、安全・安心な教育環境の実現】③スマホ、SNSの適切な使用と理解</p> <ul style="list-style-type: none"> スマホやネットの安全教室を開催し、スマホに対する規範意識を高める。 関係機関等と連携を図り、トラブルの未然防止や早期発見に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット安全教室の開催を行う。 スマホやSNSに対する危険性や使用方法等の理解を深め、アンケートで「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して肯定的な回答の割合を90%以上にする。 	B
<p>【進捗状況（10月）】</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・7月に全校生徒に対してスマホ、ネット安全教室を行った。夏休みを迎えるにあたり、スマホの使用方法やSNSに対する危険性についての意識付けになった。 ・7月にPTAと連携し、保護者を対象としたネット上のトラブル防止等に関する講演会を昨年度に引き続き実施した。 ・生徒間でのSNSに関するトラブルは増えており、使用モラル・情報活用能力の向上や危険性に関する継続的な教育等行う必要がある。 	
<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に行ったスマホ安全教室や、日々の授業でのタブレット活用の指導により、規範意識は高くなっている。校内アンケートの「スマホの危険性や適切な使い方について理解している」の項目で肯定的な回答をする割合は98%であった。 ・SNSでのトラブルは依然増加傾向である。丁寧な対応と外部の機関との連携、日々の学校生活の中で「SNSのトラブルを起こさない」ための指導を進めていく。 	
<p>取組内容【2、豊かな心の育成】④⑤自己肯定感の向上（特別支援教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制をさらに充実させ、「特別な配慮を要する生徒への指導や対応」が学校全体で広く進み、個に応じた指導や支援の在り方を工夫する。 ・特別支援学級の授業（入り込み、抽出）や通級指導において、該当生徒が達成感を得られるような取り組みやサポートを通し、自己肯定感の向上につなげる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおいて「励まし合ったり、注意したりするよい関係の友達がいる」の肯定的回答を90%以上とさせる。 ・特別支援学級在籍生徒に対して独自アンケートを実施し、「自分でできて嬉しかったことはありますか？」の項目で、肯定的な回答を80%以上にする。 	
<p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制を充実させるにあたり、特別支援教育推進委員会を3回実施。密に生徒情報を共有し、個別の対応・配慮の充実に向けて取り組んでいる。 ・生徒と保護者からの要望通り授業（入り込み・抽出）を実施している。また1学期末の懇談時に教育相談を実施。授業におけるサポート内容の確認や変更をして、本人に合ったサポートをしている。 	B
<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の充実を図る取り組みを徹底した。生徒情報の共有、個別の対応や配慮がある生徒の連携を密にすることで環境を整えた。学校アンケートの「励まし合ったり、注意したりするよい関係の友達がいる」では肯定的な回答が93.8%と指標を上回った。 ・生徒、保護者のニーズに合った授業やサポートを実施した。多くの成功体験があったことで、生徒の前向きな姿勢が見られた。特別支援のアンケートでは、「自分でできて嬉しかったことはありますか？」の項目で、肯定的な回答が100%と指標を上回った。 	
<p>取組内容【2、豊かな心の育成】④⑤自己肯定感の向上（人権教育・多文化共生教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会や諸団体と連携し、人権問題の現状を認識するために外部講師を招いて人権教育を深め実践を組織的に展開する。 	B

・国際的な平和と人権を守るための教育活動の重要性を理解し、教育活動に役立てることを目指す。

指標

- ・お互いの人権を尊重し合える行動力を持つことのできる生徒を育成する。
- ・国際クラブの活動を充実させ、民族講師からの講話を各学年で実施し生徒に働きかけていく。
- ・ASD(自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群)・ADHD・LD、性の多様性に関する SOGI(性指向・性自認)、不登校等について共有し、教育支援体制と連携する。
- ・学校アンケートにおいて「自分にはよい所がある」の肯定的回答を80%以上にさせる。

【進捗状況 (10月)】

- ・大阪市人権研修会、地域人権教育研修会に参加し、実践内容の報告を共有した。
- ・平和学習の教職員研修として、戦争の実相に迫り大阪城に残る戦争遺跡のフィールドワークを実施した。また、平和の尊さや命の大切さについて次世代に伝えていくことを目的とし、11月に平和学習の生徒向けの講演会を外部講師を招いて実施予定。
- ・ウリ文化部は、オリニウンドンフェ、オリニマダンに参加。外国にルーツを持つ子どもたちが交流し、民族文化の紹介や交流を通じて多文化共生の理解を深めた。
- ・国際多文化クラブ(中国クラブ)の活動は、定期的の実施し、計画的に進めることができている。

【結果 (2月)】

- ・全校生徒を対象とした平和学習の講演会を実施(フリージャーナリストが講師)。戦争によってもたらされている惨禍や環境問題、人権について世界で起きている現状について知る機会となった。
- ・民族講師からの貴重な講話を、各学年で実施できた。
- ・社会福祉協議会と連携し、認知症キッズサポート養成講座を実施。助けられる存在が身近にいることに気づいてもらう機会となった。また、ヤングケアラーについて自分だけで抱え込んで悩まず地域のヤングケアラーコーディネーターの支援について知ることができた。
- ・2年生では、保健の観点から生活習慣病について学習を実施。ドキュメント映像を通じて教科書とは違う観点より教員が講話を実施した。
- ・ウリ文化部、国際クラブは参加生徒が減り、対象生徒への声掛けが重要である。渡日生徒への対応も年々増えており、多様なニーズに柔軟に寄り添いながら、個別に対応できる学校を充実させていく。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 定期的ないじめアンケートや教育相談の実施でいじめに対する認識も高まり、規律ある学校生活は保っている。不登校生徒は若干減少したが不登校の原因や登校する生徒個々の対応は多様化し、対応件数は増えている。個別の対応、教室に入りづらい生徒の居場所としてココカラルームを継続して整備し、年間を通した運用ができた。学習保障としてのスタディサプリも必要に応じて活用させながら個別学習の対応をできる範囲で実施している。
- 各学年で外部講師を招いての教育活動を実施できた。今年度は学校全体での平和学習の講話も行った。また、各学年で独自の人権教育の取り組みや芸術鑑賞、ダンス講習会なども通し、豊かな心の育成を図った。生徒間でのトラブルはあるが(特に SNS 関係が多い)概ね生徒はルールやマナーを守って学校生活を送っていた。

次年度への改善点

- 不登校生徒の背景や不安要素を引き続き分析し、増え続ける外国籍の生徒（渡日生）も含め、多様なニーズに柔軟に応じ、対応できる学校（学校での生活は楽しいの肯定的回答）を高めていく。
- スマホや SNS に対する危険性や使用方法等のモラル学習を外部講師の活用を継続しながら積極的に進めていく必要がある。（教職員や保護者向けにも研修等も実施）
- 生徒の心情や背景も加味し、個に応じた（保護者のニーズに合った）対応（合理的な配慮も含む）を広げていく。
- スクールカウンセリング（SC）の継続した活用と関係諸機関や団体を上手く利用しながら個々の問題解決（支援）や学年運営を引き続き行っていく。
- 生徒や学年に応じた人権教育やキャリア教育の拡大。ウリ文や国際クラブの対応も充実させていく。
- 防災訓練など防災の取り組みは形を変えながらも継続させ、地域とも協同していく。また、防災リーダーを育成し、生命の大切さと自分の命は自分で守る行動を実践的に学ぶ機会を増やしていく。

大阪市立巽中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>4① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。R7 43% (R6 47%)</p> <p>4② 全国学力学習状況調査において国語および数学の平均点の対全国比を、前年度より上回る。R7 国語 0.84、数学 0.76 (R6 国語 0.84、数学 0.80)</p> <p>4② 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。</p> <p>※R7→3年 (R7 対府比 国語 0.88 数学 0.86)、2年 (R7 対府比 国語 0.98 数学 0.96) R6→2年 (R6 対府比 国語 0.94 数学 0.87)、1年 (R6 対府比 国語 0.93 数学 1.04)</p> <p>4③ 大阪市英語力調査 (GTEC) における C E F R ※A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合 (4技能) を48%以上にする。R7 50.7% (R6 46.9%) ※GTECのトータルスコアの440点以上をCEFR A1レベル相当以上</p> <p>5④ 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を62%以上にする。R7 58.6% (R6 61%)</p> <p>5④ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。【R7 男 42.03(42.20) 女 48.04(47.58)】(全国平均値)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容【4、誰一人取り残さない学力の向上】①授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上を目指し、研修の充実を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに相互授業参観週間と研究授業日を設け、一人ひとりの授業の工夫・改善、アップデートを目指す。 ・授業力アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」という項目に対して、肯定的な回答の生徒の割合を全教科において85%以上にする。 <hr/> <p>【進捗状況 (10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期と学年別校内研究授業を行い、事後には全体で研究協議も行った。また、相互授業参観週間では、のべ6人 (9/24 現在) の先生方が参加したが、学年や教科を超えた相互参観の割合は少ない。積極的に利用できるような実施時期や方法など検討する必要がある。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートは12月に実施予定だが、補習などを積極的に行い個に応じたきめ細やかな継続した指導を引き続き行う。(授業内容の習熟度向上も図る) 	
<p>【結果 (2月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の授業参観期間の取り組みや、校内研修として実施している研究授業での研究協議を通して授業者へのフィードバックを行うなど、授業力向上のための取り組みを年間通して行った。 ・生徒アンケートの「学校の授業はわかりやすい」という項目に対して、89.6%の生徒が肯定的な回答であったため、目標としていた85%を上回る結果となった。 	
<p>取組内容【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ②学力向上、学びの保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末やデジタル教材など、授業で学習ツールを活用した授業づくりに積極的に取り組む。 ・タブレット機材のメンテナンスやICT機器やデジタル教材の整備やWi-Fi環境の点検を行い、教育内容に支障が生じないように取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの保障」のため、非常時に家庭と学校の双方向オンライン授業（ハイブリット）授業を実施する。(不登校生への対応も含む) ・学習活動で活かせるデジタル教材を効率よく活用する。 	
<p>【進捗状況 (10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、双方向通信テストや不登校生徒への双方向通信は実施済みであるが、非常時のオンライン授業は現時点で実施していない。今後も長期欠席生徒についてはICT機器を活用した学習支援をする必要がある。 ・デジタル教科書の活用も含め各教科でタブレット端末を使用しているが、より効果的に活用する方法（ICTを活用した個別最適な学びと協同的な学び）を模索しながら、学力向上につなげていく必要がある。 	B
<p>【結果 (2月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの保障」として、不登校生徒10名に対して、デジタル教材を使って家庭学習ができるようにサポートした。 ・各教科の授業や総合的読解力育成の時間、総合的な学習の時間にタブレット端末を積極的に活用したが、目標としていた使用率を超えることはなかった。 	
<p>取組内容【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ③英語力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を使ったデジタル教科書を使い、個別学習を推進する。 ・定期テストの直前、長期休みの際に個別習熟度に応じた補習を行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に授業アンケートを行い、英語の授業内におけるタブレット使用頻度に関する質問で肯定的な回答を80%以上にする。 ・9月に実施予定の英語検定、3級以上の合格者を30%以上にする。 	B
<p>【進捗状況 (10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/26に3年生を対象に英検を実施した。結果は11月頃の予定。 ・学年ごとでテスト前の放課後や夏休み期間に未習熟生徒や英語力向上を目指す生徒向けに補習を実施した。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートは未実施であるが、2学期末に行う予定。 ・引き続きタブレットやヘッドセットを活用した授業を進める必要がある。 	
<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの直前と長期休暇中等に、補習を実施した。 ・3年生が受検した10月の英語検定の結果、3級以上の合格者が13名であり、校内の3級以上の英検保有率は16%という結果になった。また、GTEC(英語4技能検査)においてA1レベル相当以上の生徒は50%であった。 ・英語の授業内におけるタブレット使用頻度に関するアンケートで肯定的な回答は約71%となった。 ・来年度も英語検定、チャレンジテスト(2年生は府平均下回る87%、1年生は府平均を上回る103%)の対策を行い、英語の習熟を図り、総合的な英語力を高めていきたい。 	
<p>取組内容【5、健やかな体の育成】④運動の楽しさ、体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持久力を高めるために、長距離走、水泳の分野を中心として積極的に取り組む。 ・保健体育の毎授業で集団行動の指導を行い、年間を通して授業規律を保つ。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力運動能力調査において、各8種目において全国平均値を上回る。(R6は7種目で上回った。) ・長距離走、水泳の授業で重点的に全身持久力を高める。(20mシャトルラン走で確認) ・生徒アンケート「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きである」の肯定的な回答を昨年度より6%向上させる。(R6は79%) 	B
<p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力運動能力調査の結果が返却され次第、記載する。 ・2、3年生の水泳では昨年度のタイムより速くなり、2年生のシャトルランにおいて回数が増えている生徒が大半を占めた結果から、全身持久力を高めることができたと考える。(3年生のシャトルランは2学期実施予定) ・生徒アンケートがまとまり次第、記載する。 	
<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力運動能力調査(全8種目)において、全国平均を上回った種目は男子が4種目、女子が4種目となった。 ・全学年で水泳大会を実施するなど、授業で全身持久力を高める内容を多く取り入れることができた。 ・生徒アンケート「運動やスポーツが好き」との肯定的回答は昨年度より1.7%向上した。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●定期的な相互の授業参観期間や年3回の研究授業・協議、スクールアドバイザーによる助言など行うことができた。また、年間を通じたスクールアドバイザーによる学校支援事業の活用により、授業力の向上を図れた。 ●各教科で小テストや提出物の管理、補充学習など実施し、基礎学力定着や個別学習の対応に向けて取り組んでいたが、継続して学習している生徒は少ない。 	

- 渡日生徒への個別の学習（日本語個別学習や母語支援）や不登校、別室対応生徒へのデジタル教材（スタディサプリ）使用により、学びの保障や個別の対応も年間を通して実施できた。
- チャレンジテストの結果について2年生では5教科平均は府平均の94%であった。国語、数学は府平均に近いが、英語は10%以上下回る結果となった。1年生は3教科平均が府平均の96%であった。国語は府平均の90%であったが、英語は103%と府平均を上回った。いかに授業で興味を持たせながら取り組ませるかが課題となった。
- 2年生対象の体力テスト合計点において男女別の体力合計点の結果は【男 42.03(42.20) 女 48.04(47.58)】(全国平均値)であった。女子は今年度も全国平均値を上回った。また、生徒アンケート「運動やスポーツが好き」との肯定的回答は男子が68.4%、女子が42.3%であり、男子は全国平均を上回っていた。

次年度への改善点

- 各種調査における結果を対府の平均値に近づける。また、大阪市英語力調査の結果より、特にリーディングやリスニングを向上させた総合的な英語力を伸ばすことが毎年の課題となっている。次年度も英語検定を実施予定であり、英語力の向上には力を入れていきたい。また、次年度は国、数の学びサポーターの重点支援校（1年生対象）となるため、サポーターの活用時間が増加する。効果的に活用し、各種調査結果を含めた学力向上の対策を進めていく。
- 「学校の授業はわかりやすい」の肯定的な回答は高いが、引き続き、教員の授業力（特にICTの効果的な活用）向上を目指す。学校支援事業や相互授業参観、校内外の研修等を有効に利用する。
- 総合の時間や体験学習等（総合的読解力の取組みも含む）を利用し、自分の考えを表現できる力（主体的に言動や発信できる）など自らの将来に必要な力（ICT活用も含む）をつけていく。
- 体力テストの結果より、男女ともに毎年全国平均値の前後と高い結果となっているが、柔軟性・瞬発力の向上が課題となるため、授業（補強運動）を通して高めていきたい。また、運動が好きになるような取り組みや行事、部活動を通し、体を動かすこと、スポーツを楽しむ生徒をさらに増やしていきたい。

大阪市立巽中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>6① 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] (R7 生徒 8 割以上使用した割合→10.1%) R6 21.1%</p> <p>7② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 (45 時間以内など) を満たす教職員の割合を 45%以上にする。R7 45% (R6 42%) 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 (80 時間以内など) を満たす教職員の割合を 80%以上にする。R7 64% (R6 77%)</p> <p>7② 月 2 回のゆとりの日を設定し、定時退勤を推奨する。また、学校閉庁日を年 13 日以上設定。月の時間外勤務時間を昨年度より減少させる。 (R7 長時間勤務 月/約 35 時間 ・ 閉庁日 12 日) ※1 月末時点 (R6 長時間勤務 月/約 32 時間 ・ 閉庁日 13 日実施)</p> <p>8③ 年度末の校内調査における「本をよく読んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 43%以上にする。R7 36% (R6 38%)</p> <p>9④ 生徒 (放課後等) 支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動 (学校元気アップ事業も含) を通して、生徒の居場所づくりや放課後学習支援を充実させる。 (R7 計 168 回開催、のべ利用人数 811 人利用) ※1 月末時点 R6 計 102 回開催、のべ利用人数 729 人利用</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容【6、教育 DX の推進】①学習者用端末の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を有効に活用した授業に取り組む。 ・オンライン学習の環境整備を行い、オンラインによる授業実践を実施する。 ・タブレット端末の管理、運用を継続的に行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で学習用端末を活用した授業を年 1 回以上実施する。 ・タブレット端末の使用率の割合を増やす。(授業日は 100%使用かつ活用率 80%を 50%以上の日で実施) <hr/> <p>【進捗状況 (10 月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習 (双方向通信テスト) を 1 学期に実施済み。各クラス担任が独自の取り組みを行い、学校 (別室も含む) と家庭、双方向でのやり取りを行った。 ・ICT 支援員による校内研修 (Canva の使い方) を 1 学期に実施済み。各教科の制作物や課題等で Canva を活用している。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を効果的に活用する方法を模索しながら、使用頻度を高める努力が必要である。(4月～8月までで稼働57日中、日別活用率80%以上の日が12日間[年間達成率21%]) 	
<p>【結果(2月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も緊急時に備え、オンライン学習ができる環境確認が滞りなくできた。 ・学習者用端末利活用率は68.6%となり、そのうち、一日当たりの利用率が80%を超えた割合は10.1%となった。(4月から1月末までの平均)心の天気の入力を基本として、授業での活用を今後も促していきたい。 ・新学習者用端末の導入に伴い、長期休みの課題を課したり、授業で活用したりする場面が増加した。 ・ICT支援員による校内研修(7月、3月実施)を年間2回行い、ICT機器の活用を促進することができた。次年度以降も継続して実施していきたい。 ・昨年度から引き続き公立高校入試はWeb出願で行われ、今年度は自己申告書作成も学習者用端末で行った。生徒と教員間のやり取りをスムーズに行うことができた。 	
<p>取組内容【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】②働き方改革(時間外勤務等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計年度職員の効果的な活用で業務の分担やスリム化をさらに進める。 ・月ごとの時間外勤務時間の減少と職場環境の整備や改善を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回のゆとりの日の設定(定時退勤の推奨)や学校閉庁日13日以上を設定。 ・時間外勤務(月平均32時間)の減少を引き続き進めていく。 	
<p>【進捗状況(10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1～2回のゆとりの日を設定し、夏季休業中8日間の学校閉庁日を実施した。 ・4月～8月の時間外勤務時間は、昨年と比べ、月平均約2時間増加している。(約39時間/月) ・教員以外の人材を効果的に配置、活用し、教員の部活動指導時間を含む時間外勤務時間の減少を引き続き進めていく。 	B
<p>【結果(2月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間12日の閉庁日設定と月1～2回のゆとりの日を設定できた。「ゆとりの日」の設定日の再検討も行い、今後、週1回設定できることを目指していく。 ・延べ50名以上の教職員が学校運営に分担して関わり、生徒の教育活動を支えているが、時間外勤務は月平均約35時間となり、昨年度より約2時間増加した。土日を含めた部活動指導時間の増大も影響した。 	
<p>取組内容【8、生涯学習の支援】③図書室利用、読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校主幹司書の配置により、毎日の開館と本の貸し出しで図書室の大幅な利用者の増加や活用を目指す。 ・「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づき、生徒が読書を楽しむための取り組み等を通して読書に親しむ時間を向上させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の利用や本の貸し出し冊数の大幅な増加を目指す。 ・校内調査「本をよく読んでいる」の肯定的な回答を40%以上にする。 	

<p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別棟（北館）で図書コーナーを設置し、より身近に本を読める環境整備等をおこなった。（引き続き生徒の状況や希望に応じた図書対応を実施する） ・図書室の利用を増やすためにリクエストボックスや読書クイズ、読書チャートなど楽しめるアイテムを設置し、スタンプラリーも実施した。 ・学校校内アンケート（調査）は12月に実施予定。 	
<p>【結果（2月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査の結果「本をよく読んでいる」は肯定的な回答が36.6%となった。 ・図書室とは別棟（北館）に教室がある学年の生徒のために各階に図書コーナーを設置し、文化委員会による葉プレゼントなどの企画実施期間は貸出冊数が増えた（前年対比123.7%）。リクエストボックスからの選書、読書や学習につながる読書チャートやクイズも継続して実施し、学習での利用者が増えた。 ・図書室利用については学習（自主学習や授業）での利活用が増え（1学期43%→2学期47.3%）、学校図書館の学習センターとしての機能が高まってきた。 	
<p>取組内容【9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】④放課後学習等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページによる継続した情報発信を行う。また、学校協議会委員やPTA、地域との共同活動が充実するように学校運営を活性化させる。 ・放課後学習会（テスト前、長期休業中も含む）等の定期的な実施で学習習慣の定着を目指す。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校情報提供のツールとしての学校ホームページの整備や更新を随時行い、昨年度よりアクセス数（閲覧数）を増加させる。（R6 38957件） ・校内調査（保護者）「連絡や情報提供を適切に行っている」肯定的な回答を89%以上にする。 ・校内調査（保護者）「子どもは家庭学習（放課後学習）を習慣的に行っている」肯定的な回答を50%以上にする。 	
<p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習会（元気アップ学習会）は毎日実施している。特に定期テスト前は参加者が増える。4月～8月の期間で実施回数は90回、延べ利用人数は約400人となっている。（R6 4月～8月 53回、約430人） ・校内アンケート（保護者）は12月に実施予定。 ・個人端末（スマートフォン等）を使用した生徒の撮影が不可となったが、引き続き学校ホームページ等を活用し、地域への情報提供を随時行っていく。 	A
<p>【結果 2月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習会の実施回数は168回（R6 102回）、延べ利用人数は811人（R6 729人）となり、昨年度より実施回数を増やし、利用延べ人数も増加させた。<small>※1月末時点</small> ・学校アンケート（保護者）より「子どもは家庭学習を習慣的に行っている」の肯定的な回答は54%で昨年度や目標値を上回った。（R6 46%） ・校内調査（保護者）「連絡や情報提供を適切に行っている」肯定的な回答が92.2%となり、目標値89%以上を上回った。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●学習者用端末を各教科の授業や総合の時間でも使用する回数は増えていたが、目標の全生徒（不登校生徒も含む）の80%以上が使用する日が50%には、約11%で届かなかった。 	

- ICT 機器（ミマモルメなどのツールを含む）を積極的に活用し情報共有や会議の効率化など、業務の効率化が図れたが、多様な個別対応事案や処理が多く、時間外勤務平均時間の減少はできなかった。部活動での成果（男子バスケットボール部が全国大会出場・ベスト16、女子バスケットボールは大阪府ベスト16）が出たり、積極的に部活動に参加する生徒も増え、生徒アンケートでも肯定的回答が向上した。（R6 82%→R7 84%）
- PTA 活動も ICT 機器を活用し、効率化・簡素化しつつも役員・実行委員で連携し、学校教育環境（授業環境等）状況を共有できた。また、学校協議会（委員）も含め、地域と協同しながら学校（教育）環境を整えていった。（保護者アンケート「学校は環境整備がなされている」の肯定的回答が88%であった。（R6 89%）
- 学校主幹司書の配置により本の貸出冊数の大幅な増加にはならなかったが、図書室の利用、活用にあたりさまざまな面で機能し、利用者が大きく増加した。
- 放課後学習会（元気アップ学習会を含む）を毎日サポーターを活用して実施、利用者数は増えた。放課後の学習場所は確保できている。学習習慣定着の向上を目指す。

次年度への改善点

- 持ち帰りベースとなった学習者用端末の効果的・効率的な活用や継続的な使用を促す。故障機への対応などハード面でも随時支援センターと連携し、校内整備も整えておく。また、教職員の使用頻度（活用領域）を増やし、活用スキルを ICT 支援員の活用で向上させる。
- 2年目となる学校主幹司書を中心とし、図書室の利用者をさらに増やす。図書室の整備や活用の幅を広げ、多様な用途に対応できる図書室をさらに充実させる。
- 連絡アプリ（ミマモルメ）の全家庭登録を目指し、各学年や担当者からも定期的な案内や情報がミマモルメを利用し、保護者に周知されるように促す。
- サポーターや部活動指導員等を効果的に活用し、各個人の時間外勤務のさらなる縮小、業務の効率化・分担化についても進めていく。
- 学校協議会や PTA の協力による継続した地域共同活動を充実させ、学校運営の活性化をさらに進める。また、バージョンアップされた学校ホームページを効果的に活用し、アクセス数（閲覧数）を引き続き増加させていく。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 (異中学校) 学校協議会

1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価結果は概ね達成できており、妥当である。(目標数値だけでなく取り組んだ過程も考慮)
- ・不登校生徒への引き続きの対応やスクールカウンセラー(SC)の活用など、関係諸機関や地域とも連携し、個別(一人ひとりを大切に)した多様な対応をさらに充実させること)の対応が必要である。
- ・学校主幹司書の配置により図書室の多様な使用が実現したが、読書習慣は依然課題である。アンケート結果よりスマートフォンの使用時間がかかなり多いため、少しでも学習や読書等で減少につなげていけばと思う。
- ・学力向上に(英語力向上も含む)向けては依然課題はあるが、授業での学習環境を整え、学習意欲を高めさせ(端末の効果的な活用)、各種調査等で大阪府の平均値に近づけることを目指して欲しい。
- ・1年間学校がどの部分で教育活動を重点的に取り組んできたのか、また、その成果を知ることができた。

2 年度目標(全市共通・学校園)ごとの評価

年度目標:安全・安心な教育の推進

- ①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 82%、R7 79.3%)
⇒最も肯定的回答が増加するよう、引き続き向上させてほしい
- ②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 11%、R7 6.7%) ※2学期末時点
⇒引き続き減少させてほしい
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 60%、R7 0%)
⇒個別の対応を含め増加させてほしい
- ④年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6 89%、R7 84.2%)
⇒引き続き向上させてほしい
- ⑤学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を77%以上にする。(R6 77%、R7 78.6%)
⇒引き続き向上させてほしい
- ⑥学校アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を95%以上にする。(R6 95%、R7 96.6%)

<p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>⑦年度末の校内調査で「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6 98%、R7 98%)</p> <p>⇒小学校とも連携し、引き続き向上させてほしい</p>
<p>年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上</p>
<p>①年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R6 47%、R7 43.4%)</p> <p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>②全国学力学習状況調査において国語および数学の平均点の対全国比を、前年度より上回る。(R6 国語 0.84、数学 0.80、R7 国語 0.84、数学 0.76)</p> <p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>③中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</p> <p>※R6→2年 (R6 対府比 国語 0.94 数学 0.87)、1年 (R6 対府比 国語 0.93 数学 1.04)</p> <p>※R7→3年 (R7 対府比 国語 0.88 数学 0.86)、2年 (R7 対府比 国語 0.98 数学 0.96)</p> <p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>④大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を48%以上にする。(R6 46.9%、R7 50.7%)</p> <p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>⑤年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合62%以上にする。(R6 61%、R7 58.6%)</p> <p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>⑥全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。 【R7 男 42.03(42.20) 女 48.04(47.58)】(全国平均値)</p> <p>⇒引き続き全国平均を上回ってほしい</p>
<p>年度目標：学びを支える教育環境の充実</p>
<p>①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(R6 21%、R7 10.1%) ※1月末時点</p> <p>⇒昔とかなり学習スタイルが変わってきたが、引き続き向上させてほしい</p> <p>②「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を45%以上にする。(R6 42%、R7 45.1%) ※1月末時点</p> <p>⇒引き続き向上させてほしい</p> <p>③「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。(R6 77%、R7 64.5%) ※1月末時点</p> <p>⇒引き続き取り組んでほしい</p> <p>④月2回のゆとりの日を設定し、定時退勤の推奨を行う。また、学校閉庁日を年13日以上設定する。(R6 長時間勤務 月/約32時間・閉庁日13日)、(R7 長時間勤務 月/約</p>

35 時間 ・ 閉庁日 12 日) ※1 月末時点

⇒引き続き取り組んでほしい

⑤年度末の校内調査における「本をよく読んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 43%以上にする。(R6 38%、R7 36.6%)

⇒難しい傾向にあるが、向上させてほしい

⑥放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動（学校元気アップ事業も含む）を通して、生徒の居場所づくりや放課後学習支援の回数を昨年より増やす。(R6 計 102 回開催、のべ利用人数 729 人利用)

(R7 計 168 回開催、のべ利用人数 811 人利用) 1 月末時点

⇒引き続き学力向上に向けて取り組んでほしい

3 今後の学校園の運営についての意見

主な意見交換（次年度に向けて）としては以下の項目であった。

不登校対策

多様化する不登校生徒の背景や不安要素を引き続き分析し、増え続ける外国籍の生徒（渡日生）も含め、多様なニーズに柔軟に応じ、対応できる学校（学校での生活は楽しいの肯定的回答の増）を地域とともに造っていく。

スマホ、SNS の活用（モラル教育）

SNS でのトラブルは増加しているため、未然の対応と外部機関との連携が必要あり。

日々の学校生活の中で「SNS のトラブルを起こさない」指導や取り組みを進めて欲しい。

学力向上（英語力向上も含む）

次年度も英語検定やチャレンジテストに向けた英語の習熟を図り、学力向上、英語力を高めるために、朝学習を有効に活用しては？

学習者用端末の使用率向上

時代の流れであるが、持ち帰りベースとなった学習者用端末の効果的・効率的な活用や継続的な使用で学力向上等に活かしてほしい。

全体を通して、課題や現状の確認ができた。

特色ある活動をしなければ、生徒は異中を選んでこない。生徒数が増えれば、先生の数が増え、できることも増えるため、引き続き取り組みを進めて欲しい。